

家族支援専門看護師

- 「家族は第2の患者」と言われるように、患者さんの病や治療はご家族の気持ちや生活にも大きく影響します。患者さんの健康回復のため、ご家族を支えることの大切さは広く知られるようになりました。
- 患者個人・家族及び集団に対して、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究という6つの役割を持ちながら、家族を支援するための活動をしています。



こんなことをやっています

- 患者さんやご家族が病気や障害に関連して生じる悩みや葛藤に対する支援
- 患者さんやご家族の支援に関する相談
- 家族間－医療者間・家族－医療者間の調整
- 倫理的な問題への対応
- 東海大学看護師キャリア支援センター地域貢献事業家族看護コースや家族看護の勉強会の開催
- 研究活動の相談



木村 藍子
2011年12月取得

私は、さまざまな障害を持つ患者さんを含めたご家族を支援したい、その患者・家族を支援する看護師やその他の医療者を支援したいと思い、家族支援専門看護師になりました。脳血管障害・難病患者さん、ご家族との関わりにおいて、患者さんの障害を受け止め、今後の生活を再構築していくためには、ご家族の支援も重要であると考えています。現在は血液腫瘍内科等の患者さん・ご家族への支援を行っています。患者さんが回復するとご家族の心境も変化し、ご家族が患者さんに声かけをすると患者さんも前向きな気持ちになることがあります。このような相互作用を大切にご家族への支援を行っていきたいと思います。お困りの際は是非ご相談ください。



三枝 真理
2012年12月取得

私は、子どもから高齢の方まで、あらゆる年代の患者さんに行われる造血細胞移植の現場で働いています。リスクの高い、高度専門治療に挑まれる患者さん、提供者となるドナー、各々のご家族の気持ちは日々揺れ動き、重責や緊張が絶えず、ご負担は大きいものです。ご家族や医療スタッフと十分相談しながら、患者さんの回復と問題の解決を目指して尽力したいと思いますので、お気軽にお声掛けください。



園川 雄二
2012年12月取得

私は、両親が悩みながら祖父を自宅で介護していたこと、問題の生じた患者さんやご家族に対し看護師として何もできなかったという思いを抱いたことが、家族支援専門看護師を目指すきっかけでした。患者さんやご家族の悩みや葛藤はもちろん、患者さんやご家族を援助する立場の看護師、その他の医療者の悩みや葛藤に対して手助けすることができればと考えています。どのような些細なことでも構いませんので、気軽にご相談いただければと思います。



小泉 織絵
2016年12月取得

私は、移植病棟での家族との出会い、自分自身が患者の家族となったことをきっかけに家族看護に興味を持ちました。家族成員の健康障害は、家族に大きな困難を与えます。でも家族にはその困難に立ち向かい、乗り越える力があります。その家族の力を発見し支援できる看護がしたいと思っています。家族ケアのことで悩んでいる、葛藤を抱えている方、どんな些細なことでも構いませんので、気軽にご相談いただければと思います。



伊内 さゆり
2017年12月取得

私はハイリスク新生児を対象とする現場で働いています。言語的に意思表示できない新生児が対象であるため、代理意思決定者となるご家族への看護を日常的に実施しています。経験年数を重ねるうちに、答えのないご家族への看護に対して自問自答するようになり、大学院に進学し家族支援専門看護師となりました。実践を通じて、家族看護の奥深さを実感する日々です。皆様と討議しながら学びを深めていけたらと思います。